

令和7年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第8号（11月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和7年10月23日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	多い	少ない

○11月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		10月の発生量 (平年比)	10月からの 増減	11月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類（カンシャシクイハマキ・イネヨトウ）（夏植え）	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
（温州みかん）	① そうか病	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
（タンカン）	① かいよう病	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
マンゴー	② ハダニ類	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
小ギク（年末出荷用）	① 黒斑・褐斑病	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移（↗）
	② アザミウマ類	やや多	↗	やや多	例年の発生量の推移（↗）
	③ アブラムシ類	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
	④ カスミカメ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	⑤ ハダニ類	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病虫害（沖縄群島）

作物	病虫害名	発生状況及び防除事項
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。

令和7年度 宮古群島 病害虫発生予報 第8号（11月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和7年10月23日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	多い	少ない

○11月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		10月の発生量 （平年比）	10月からの 増減	11月の発生量 （平年比）	
さとうきび	① メイチュウ類（カンシャシクイハマキ・イネヨトウ）（夏植え）	やや多	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	→	並	平年の発生量の推移（↘）
	② マンゴーハフクレタマバエ	やや多	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
	③ ハダニ類	やや多	↘	やや多	平年の発生量の推移（→）
かぼちゃ	① うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	② 斑点・褐斑細菌病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	③ ハモグリバエ類	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	黒穂病	複数のほ場で発生が確認された。 発病株からの胞子飛散を防ぐためにビニール等で袋かけして抜き取り処分する。新植への感染を防ぐために発病ほ場やその隣接地からの採苗は控える。発病の多いほ場は早急に更新する。
マンガ	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	チョウ目幼虫	一部施設でコシロモンドクガ、ナカジロフサヤガの発生が見られた。 新葉を食害するので、施設内を見回り、不要な新梢を除去するとともに、早期発見・防除に努める。

令和7年度 八重山群島 病害虫発生予報 第8号（11月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和7年10月23日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	多い	少ない

○11月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		10月の発生量 （平年比）	10月からの 増減	11月の発生量 （平年比）	
さとうきび	① メイチュウ類（カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ）（夏植え）	やや多	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↘	やや少	平年の発生量の推移（↘）
	② マンゴーハフクレタマバエ	やや多	→	並	新梢の発生量が減少するため
	③ ハダニ類	並	↘	やや多	平年の発生量の推移（↘）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
水稲	紋枯病	西表島及び石垣島の一部ほ場で発生が確認された。穂ばらみ期～出穂期に登録農薬を茎葉散布する。また被害株や畦畔の罹病雑草に形成された菌核が次作の感染源となるため、被害わらは水田付近に放置せず、畦畔の除草を徹底する。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	枝枯細菌病	一部施設で発生が見られた。本病は台風等の風害による枝の傷口から細菌が侵入し、発病すると考えられるため、防風ネット等により風害を防ぐ。また発病枝は速やかに剪定し、施設外へ持ち出し処分する。
	カイガラムシ類	一部施設でコナカイガラムシ類の発生が見られた。カイガラムシ類は、一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。またハブラシ等で成幼虫をこすり落とすことも、密度低減に有効である。多発すると防除が困難になるため、早期発見・防除に努める。

オ ク ラ	葉すす病	複数のほ場で発生が確認された。不要な下葉を除去するとともに、発生確認時及び台風・大雨の前後には登録農薬を散布する。
	クロテンコナカイガラムシ	複数のほ場で発生が確認された。発生を確認したら速やかに寄生部位を除去し、ほ場外に持ち出し処分する。寄主植物が多いので、雑草防除に努めるとともに、周辺の作物や樹木等での発生に留意する。
	ハダニ類	複数のほ場で発生が確認された。薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
	カタツムリ類	複数のほ場で発生が確認された。切り戻し後萌芽した株は、草丈が低く葉が柔らかいため加害を受けやすいので、発見次第捕殺に努める。